

(11) 環境研と世の中の年表

西暦 (和暦)	国内外の主な出来事	国、青森県及び六ヶ所村の 関連する出来事	環境研
1990 (H02)	・天皇陛下が即位の礼・大嘗祭 ・景気拡大、「岩戸」抜いて史上2位に	・むつ小川原港に5千トン級岸壁が完成、供用を開始(11.14) ・低レベル放射性廃棄物埋設事業許可(11.15)	・新研究所研究計画検討会が「新研究所の研究計画について」をとりまとめ(8月) ・財団法人環境科学総合研究所(仮称)設立に係る打合せ(10.5) ・第1回設立準備委員会(10.22) ・財団法人環境科学技術研究所設立発起人会(11.19) ・財団法人環境科学技術研究所設立(設立許可書交付)(12.3) ・第1研究部、第2研究部設置(12.3) ・設立登記完了。発足(12.6)
1991 (H03)	・雲仙・普賢岳で火砕流 ・若貴ブーム、千代の富士引退 ・湾岸戦争ぼっ発	・県及び村と日本原燃産業(株)との間において、ウラン濃縮施設に関する安全協定締結(7.15) ・六ヶ所村立郷土館オープン(8.3) ・六ヶ所原燃 PR センター開館(9.20)	・科学技術庁委託業務の開始(3.20) ・事務、研究棟の設計検討開始 ・青森県委託業務の開始(8.27)
1992 (H04)	・バブル崩壊で不況深刻化 ・バルセロナ五輪14歳の岩崎恭子が金メダル ・地球環境サミット、ブラジルで開催	・ウラン濃縮工場操業開始(3.27) ・高レベル放射性廃棄物貯蔵施設事業許可(4.3) ・高レベル放射性廃棄物貯蔵施設着工(5.6) ・日本原燃サービス(株)と日本原燃産業(株)が合併、日本原燃(株)設立(7.1) ・県及び村と日本原燃(株)との間において、低レベル放射性廃棄物埋設施設に関する安全協定締結(9.21) ・低レベル放射性廃棄物埋設センター操業開始(12.8) ・再処理工場事業許可(12.24)	・事務、研究棟起工式(2.20) ・田名部匡省農林水産大臣視察(9.29) ・第3研究部設置(10.1)
1993 (H05)	・皇太子、雅子さまご結婚 ・Jリーグ開幕 ・再処理工場の建設開始	・再処理工場着工(4.28) ・原燃 PR センター別館オープン(5.1) ・ウラン濃縮工場から製品ウランを初出荷(11.18)	・渡海政務次官視察(3.11) ・特定公益増進法人の許可(3.22) ・閉鎖型生態系物質循環施設に関する国際検討委員会(3.31) ・事務・研究棟(現本館)竣工(3.31) ・環境動態、生物影響、環境シミュレーションの3研究部に改称(4.1) ・平野政務次官視察(5.24) ・江田五月科学技術庁長官視察(9.16)
1994 (H06)	・大江健三郎氏ノーベル文学賞 ・記録的な猛暑と水不足	・県及び村と日本原燃(株)との間において、高レベル放射性廃棄物貯蔵施設に関する安全協定締結(12.26)	・田中真紀子科学技術庁長官視察(7.27) ・衆議院科学技術委員会視察(8.31)
1995 (H07)	・阪神大震災 ・オウム真理教地下鉄サリン事件 ・野茂投手が米大リーグ新人王に ・もんじゅ火災事故	・六ヶ所村が国際熱核融合実験炉(ITER)のむつ小川原開発地域への誘致表明(1.30) ・高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター操業開始。海外から返還廃棄物を初搬入(4.26) ・青森県が国際熱核融合実験炉(ITER)のむつ小川原開発地域への誘致表明(10.23)	・閉鎖系植物実験棟、低線量生物影響実験棟建屋竣工(3.31) ・プレスへの施設公開(5.30) ・遺伝子実験施設建設計画書を科学技術庁に提出(6.9) ・斉藤青森県副知事視察(6.19) ・平野科学技術庁顧問視察(6.21) ・間宮科学技術庁官房審議官視察(10.4) ・蛭名青森県出納長視察(11.15)

西暦 (和暦)	国内外の主な出来事	国、青森県及び六ヶ所村の 関連する出来事	環境研
1996 (H08)	<ul style="list-style-type: none"> <li>病原性大腸菌 O157 が猛威</li> <li>国連、核実験全面禁止条約を採択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社) 日本原子力産業会議に「RI・放射線利用に関わる総合研究施設」の誘致に向け、調査を委託(6.12)</li> <li>ウラン濃縮工場への原料ウラン海上輸送初搬入(9.17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財団法人環境科学技術研究所五年史発行(3.31)</li> <li>西方青森県むつ小川原開発室次長視察(4.8)</li> <li>工藤青森県副知事視察(5.10)</li> <li>荒井科学技術庁原子力局研究技術課長視察(5.30)</li> <li>中川国務大臣・科学技術庁長官視察(7.8)</li> <li>内藤原子力安全委員会委員長代理視察(10.18)</li> <li>都甲原子力安全委員長視察(11.12)</li> <li>近岡国務大臣・科学技術庁長官視察(12.14)</li> </ul>
1997 (H09)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動燃で爆発・火災事故</li> <li>香港、中国に返還</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季報六ヶ所村別冊(AUTUMN 1997) 国際科学技術都市誘致特集で、土田村長が総合研究施設誘致計画を紹介(10.24)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加藤科学技術庁原理力局長視察(1.21)</li> <li>松原原子力安全委員視察(3.4)</li> <li>青森県畑作園芸試験場竹村達男前場長を特別研究員に招聘(4.1)</li> <li>土屋科学技術庁原子力局核燃料課長視察(7.2)</li> <li>伊藤国務大臣・国土庁長官視察(8.8)</li> <li>谷通商産業省環境立地局産業施設課長視察(9.29)</li> <li>気象と物質循環の国際会議(10.14-16)</li> <li>大桃所長が六ヶ所村研究機能施設誘致促進検討委員会委員として遺伝子・RI 利用研究施設の必要性を説明(10.24)</li> <li>藤野国土庁計画調査局審議官視察(11.5)</li> </ul>
1998 (H10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融ビッグバン始動、業界の提携・再編急進展</li> <li>長野冬季五輪開催</li> <li>サッカーW 杯日本初の本大会出場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(財)原子力安全技術センターが防災技術センター事務局を開設(10.5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸・水圏における物質循環とその応用に関する国際検討委員会(7.21-23)</li> <li>大桃所長と竹村特別研究員が県の全試験研究機関に AMBIC 建設計画を説明し、賛同を得た(8月)</li> </ul>
1999 (H11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海村核燃料加工会社で国内初の臨界事故</li> <li>臓器移植法に基づく初の脳死移植実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>六ヶ所村で JCO 事故の説明会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低線量放射線生物影響に関する研究調査で AMBIC 研究テーマに関する事前評価を受けた(4.1～)</li> <li>低線量放射線の生物影響に関する国際検討委員会(10.20-22)</li> </ul>
2000 (H12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>初の南北朝鮮首脳会談</li> <li>有珠山と三宅島噴火</li> <li>鳥取西部大地震</li> <li>シドニー五輪、マラソンの高橋尚子が金メダル</li> <li>コンコルド墜落、乗員乗客 109 人死亡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>むつ小川原(株)解体、新むつ小川原(株)創設(8.4)</li> <li>国内原子力発電所から使用済燃料初搬入(12.9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿式酸化実験装置の事故(3.10)</li> <li>低線量放射線生物影響に関する研究調査で AMBIC 建設のための基本設計書作成(4.1～)</li> <li>成田榮子青森県副知事視察(4.27)</li> <li>蓮実進国土総括政務次官視察(9.5)</li> <li>木下博夫国土事務次官視察(9.12)</li> <li>環境中における放射性核種の分布と存在形態に関する国際検討委員会(10.11-13)</li> <li>創立 10 周年記念「報告と講演の会」開催(12.6)</li> </ul>

西暦 (和暦)	国内外の主な出来事	国、青森県及び六ヶ所村の 関連する出来事	環境研
2001 (H13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内初の BSE 感染牛確認</li> <li>ノーベル化学賞に野依名大教授</li> <li>米で同時多発テロ</li> <li>米英軍アフガン攻撃、タリバン政権崩壊</li> <li>米マリナーズ・イチロー MVP と新人王</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設中の再処理工場で通水作動試験開始(4.20)</li> <li>原子燃料サイクル施設における事故対応の拠点となる、応急対策拠点施設(オフサイトセンター)「原子力防災研究プラザ」が尾駈地区に完成し、関係者に公開(7.6)</li> <li>クリスタルバレイ構想立地企業第 1 号のエアアイエス(株)が液晶カラーフィルター製造工場の操業開始(7.9)</li> <li>日本原燃(株)が MOX 燃料工場立地協力要請(8.24)</li> <li>エコパワーがむつ小川原開発地域に建設していた風力発電機 9 基が完成(11.22)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全天候型人工気象実験施設・閉鎖型生態系実験施設竣工(3.31)</li> <li>全天候型人工気象実験施設運用開始(4.1)</li> <li>先端分子生物科学研究センター(AMBIC)整備開始(4.1)</li> <li>環境制御と生命維持の先端技術に関する国際会議(9.26-28)</li> <li>環境研十年史発行(9.28)</li> </ul>
2002 (H14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>初の日朝首脳会談、致被害者 5 人の帰国</li> <li>ノーベル物理学賞に小柴昌俊氏、化学賞に田中耕一氏</li> <li>日韓共催サッカー W 杯で日本ベスト 16</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子力防災プラザが国からオフサイトセンターの指定を受ける(2.8)</li> <li>閣議により六ヶ所村が ITER の国内候補地に決定(5.31)</li> <li>再処理工場で化学試験開始(11.1)</li> <li>次期埋設事業予定地の本格調査開始(11.13)</li> <li>再処理工場の核査察を主な目的とした六ヶ所保障措置センター業務開始(12.1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大島理森衆議院議員視察(8.5)</li> <li>今井敬日本経済団体連合会名誉会長視察(10.5)</li> <li>低線量放射線の生物影響に関する国際シンポジウム(10.9-11)</li> <li>細田博之科学技術政策担当大臣視察(10.28)</li> <li>森喜朗前内閣総理大臣視察(10.29)</li> </ul>
2003 (H15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>米英軍イラク攻撃、フセイン元大統領拘束</li> <li>新型肺炎(SARS)が中国などで大流行</li> <li>米スペースシャトル・コロンビア号帰還時に空中分解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本原燃(株)が本社を六ヶ所村に移転(1.1)</li> <li>環境エネルギー産業特区にむつ小川原地域 16 市町村と八戸市が認定(5.23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大野松茂文部科学省大臣官房政務官視察(5.1)</li> <li>毛利衛日本科学未来館館長・宇宙飛行士視察(6.3)</li> <li>放射生態学環境の放射線被ばくに関する国際シンポジウム(10.22-24)</li> </ul>
2004 (H16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟県中越地震最大震度 7</li> <li>アテネ五輪で金メダル史上最多タイ 16 個</li> <li>プロ野球、楽天球団参入</li> <li>イチロー・大リーグ年間最多安打記録更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本風力開発(株)六ヶ所村二又地区に風力発電機 20 基完成(5.26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住実験と物質循環技術に関する国際シンポジウム(9.28-30)</li> <li>AMBIC 第一研究棟竣工(9.30)</li> <li>AMBIC 第一研究棟運用開始(10.1)</li> </ul>
2005 (H17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>郵政民営化法成立</li> <li>JR 福知山線脱線事故</li> <li>紀宮さま御成婚</li> <li>東通原子力発電所運転開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再処理工場でウラン試験開始(1.17)</li> <li>県及び村と日本原燃(株)との間において MOX 燃料加工施設に係る立地基本協定締結(4.19)</li> <li>ITER 本体建設地フランスカダラッシュに決定(6.28)</li> <li>文部科学省からの ITER 計画に係る幅広いアプローチ(BA)の立地要請を青森県が受諾(10.12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低線量放射線被ばくと生体防御機能に関する国際シンポジウム(9.28-30)</li> <li>AMBIC 第二研究棟設計・基礎工事開始(4.1)</li> </ul>
2006 (H18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>トリノ五輪フィギュアスケートで荒川静香金メダル</li> <li>再処理工場アクティブ試験開始(～2008)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再処理工場でアクティブ試験開始(1.31)</li> <li>第 3 次六ヶ所村総合振興計画に「環境科学技術研究所の増設に取り組み多様な産業の立地を誘導します」と記載(3.14)</li> <li>文部科学省が、原子力防災研究プラザに六ヶ所村保障措置分析所に係る原子力防災専門官事務室を開設するとともに同プラザをオフサイトセンターに指定(3.30)</li> <li>日本原子力研究開発機構、尾駈地区に青森事務所を開設(4.1)</li> <li>文部科学省が原子力防災研究プラザ内に原子力専門官事務室を設置(4.14)</li> <li>クリスタルバレイ構想立地企業第 2 号の東北デバイス(株)竣工(4.29)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境モデリングと放射生態学に関する国際シンポジウム(10.18-20)</li> </ul>

西暦 (和暦)	国内外の主な出来事	国、青森県及び六ヶ所村の 関連する出来事	環境研
2007 (H19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年金記録未統合 5,000 万件が判明</li> <li>食品偽装問題</li> <li>中越沖地震、柏崎刈羽原発でトラブル多発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITER 関連施設の運営、費用負担等をめぐる協定に日欧署名(2.5)</li> <li>ITER 関連施設の運営、費用負担等をめぐる協定を閣議決定(2.27)</li> <li>新むつ小川原(株)、弥栄平で国際核融合エネルギー研究センターなどの建設に向けた土地造成工事に着手(5.17)</li> <li>核融合科学研究所シミュレーション部六ヶ所研究センター弥栄平地区に開設(5.28)</li> <li>文部科学省は日本と欧州原子力共同体による ITER 関連事業の実施機関に日本原子力研究開発機構を指定(6.1)</li> <li>青森県が新むつ小川原開発基本計画を策定(6.14)</li> <li>新むつ小川原開発基本計画の閣議口頭了解(「環境研」が「AMBIC の整備など、機能拡充の促進」と記載)(6.22)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉鎖系システム構築と <sup>14</sup>C 移行モデリングに関する国際検討委員会(11.15-16)</li> <li>青森県内(六ヶ所村、青森市、八戸市、弘前市)での成果報告会が始まる</li> <li>広瀬崇子・伊藤隆彦原子力委員来所(7.20)</li> <li>古谷毅文科省大臣官房審議官来所(7.26)</li> </ul>
2008 (H20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋葉原で通り魔事件</li> <li>日本人 4 人にノーベル賞南部陽一郎氏、益川敏英氏、小林誠氏/物理学賞、下村脩氏/化学賞</li> <li>北京五輪、競泳北島康介が 2 大会連続 2 冠達成</li> <li>後期高齢者医療制度開始</li> <li>リーマンショック金融危機、株価暴落</li> <li>大間原子力発電所の設置を許可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITER 関連研究ブローダーアプローチ(BA)活動・弥栄平で国際核融合エネルギー研究センターなどの建設工事着工(5.21)</li> <li>「六ヶ所村次世代エネルギーパーク」が東北地区で初めて経済産業省認定(6.3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AMBIC 第二研究棟竣工(3.31)</li> <li>AMBIC 第二研究棟運用開始(4.1)</li> <li>低線量放射線の発がん遺伝子影響に関する国際シンポジウム(10.7-8)</li> </ul>
2009 (H21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主圧勝、政権交代</li> <li>裁判員裁判開始</li> <li>行政刷新会議、概算要求「事業仕分け」を公開</li> <li>新型インフル、WHO パンデミック宣言</li> <li>マイケル・ジャクソン死去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟完成記念式典(4.10)</li> </ul>	
2010 (H22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小惑星探査機「はやぶさ」が 7 年ぶり帰還</li> <li>ウィキリークス、米外交公電大量公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 日には資源エネルギー庁長官、2 日には日本原燃(株)及び電気事業連合会、6 日には経済産業大臣から青森県及び六ヶ所村に「海外返還廃棄物の受入れ」(海外からの返還低レベル廃棄物受入れ等)要請(3 月)</li> <li>国際核融合エネルギー研究センターなどが完成(3.12)</li> <li>経済産業大臣が日本原燃(株)に MOX 燃料加工施設事業許可(5.13)</li> <li>六ヶ所村次世代エネルギーパーク開業(東北初)(5.22)</li> <li>青森県が海外返還廃棄物受入れ了解(8.19)</li> <li>村議会が原子燃料サイクルに見合った電源立地地域対策交付金法制化や施設周辺国道整備を国に求める意見書を全会一致で可決(9.13)</li> <li>村長、議長及び副議長が経済産業大臣に意見書を直接提出(9.14)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>六ヶ所村次世代エネルギーパークの協力機関として参画</li> <li>六ヶ所村から地域教育機関での教育活動貢献に対して善行表彰</li> </ul>
2011 (H23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災、東京電力福島第 1 原発事故で過酷事故</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村長及び村議会が、国の近藤駿介原子力委員会委員長及び高原一郎経済産業省資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島原発事故に対する対応として公的機関からの放射能測定や発電所作業員の被ばく線量評価に貢献</li> </ul>

西暦 (和暦)	国内外の主な出来事	国、青森県及び六ヶ所村の 関連する出来事	環境研
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なでしこジャパン、サッカーW杯優勝</li> <li>・歴史的円高、一時1ドル=75円32銭</li> <li>・独伊などで脱原発決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー庁長官に核燃料サイクル政策の堅持を求める要望書提出(10.26)</li> <li>・むつ、大間、東通、六ヶ所の4市町村長及び議長が経済産業省などに核燃料サイクルを含む原子力政策を堅持し、原発の建設や原子力関連事業を着実に推進するよう要望(12.21)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部と広報・研究情報室が統合して総務部へ</li> <li>・イタリア共和国新技術・エネルギー・環境開発庁との共同研究「脳腫瘍発生への低線量率・低線量放射線による影響(H23-H27)」</li> <li>・大桃洋一郎特別顧問が国際放射生態学連合最高賞(“V.I.Vernadsky Award”)受賞</li> </ul>
2012 (H24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衆院選で自公圧勝、政権奪還</li> <li>・原発、一時稼働ゼロ</li> <li>・山中教授にノーベル医学生理学賞</li> <li>・ロンドン五輪で日本勢史上最多メダル38個</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下北半島地域の防災力強化等のため、8市町村及び防災関係機関で組織する「下北半島防災連絡会議」を設置(2.1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人への移行(4.1)</li> <li>・環境シミュレーション及び環境動態研究部を環境影響研究部に統合(4.1)</li> <li>・イタリア共和国新技術・エネルギー・環境開発庁及びドイツ連邦共和国放射線防護庁ヘルムホルツセンター・ミュンヘンとの共同研究「病態モデルマウスを用いた低線量放射線の心血管系障害影響解析(H24-H29)」</li> </ul>
2013 (H25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アベノミクス始動、特定秘密保護法が成立</li> <li>・福島第1原発、汚染水深刻化</li> <li>・日本、TPP交渉に参加</li> <li>・中国で「PM2.5」汚染深刻化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むつ、大間、東通、六ヶ所の4市町村長及び議長が経済産業大臣、資源エネルギー庁長官、県選出国会議員に核燃料サイクル政策の堅持を要望(2.19)</li> <li>・原子力規制委員会より核燃料施設等の新規制基準を施行(12.18)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋野公造環境省大臣政務官視察(5.7)</li> <li>・石原伸晃環境大臣視察(5.25)</li> <li>・日本維新の国会議員視察(12.17)</li> </ul>
2014 (H26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解釈改憲で集団的自衛権容認</li> <li>・御嶽山噴火、広島で土砂災害</li> <li>・理化学研究所小保方研究員STAP細胞論文に捏造や改ざん発覚</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県議会環境厚生委員会議員視察(7.2,25)</li> <li>・低線量放射線の生物影響の国際ワークショップ(10.20-21)</li> <li>・低線量生物影響実験棟改修(セシウム線源交換)</li> </ul>
2015 (H27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人3人(赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏)にノーベル物理学賞</li> <li>・エボラ出血熱感染拡大</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・低線量・低線量率放射線生物影響研究の新展開国際シンポジウム(5.26)</li> <li>・榊原定征日本経済団体連合会会長視察(9.17)</li> <li>・青森県議会商工労働観光エネルギー委員会視察(8.26)</li> <li>・Christopher H. Clement 国際放射線防護委員会秘書官視察(9.9-11)</li> </ul>
2016 (H28)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本地震</li> <li>・米大統領、歴史的な広島訪問</li> <li>・リオ五輪過去最多41メダル</li> <li>・地球温暖化対策のパリ協定発効</li> <li>・もんじゅ廃炉決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力発電における使用済み燃料の再処理等の実施に関する法律(再処理等拠出金法)成立(5.11)</li> <li>・使用済み燃料再処理機構設立(10.3)</li> <li>・青森県、使用済み燃料再処理機構と「使用済み燃料の再処理等の業務に関する基本協定書」締結(11.1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「閉鎖型生態系実験施設」の名称を「生態系実験施設」に変更(9.1)</li> <li>・環境研-ICRP 共催シンポジウム「ICRP放射線防護体系における環境防護-科学・知識から応用に向けて」開催(10/4)</li> </ul>
2017 (H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森友・加計・日報、政権揺るがす</li> <li>・九州北部豪雨</li> <li>・将棋の藤井聡太四段29連勝</li> <li>・国連、核禁止条約採択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県量子科学センター(QSC)開設(10.1)</li> </ul>	
2018 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日産ゴーン会長を逮捕</li> <li>・西日本豪雨、北海道地震、災害相次ぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城県大洗町、東海村、岡山県鏡野町、六ヶ所村の4自治体で原子力研究開発推進自治体協議会設立(4.24)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸谷一夫文部科学事務次官視察(5.1)</li> </ul>

西暦 (和暦)	国内外の主な出来事	国、青森県及び六ヶ所村の 関連する出来事	環境研
	・平昌五輪最多メダル 13 個、 フィギュア羽生弓弦連覇		
2019 (R01*)	・天皇陛下即位。「令和」改元 ・探査機はやぶさ2、小惑星リュウグウに着地成功 ・ラグビーW 杯日本大会日本 8 強 ・消費税率 10%スタート ・ノーベル化学賞に吉野彰氏 ・沖縄・首里城焼失	・むつ、大間、東通、六ヶ所の 4 市町村長が 県に県核燃料物質等取扱税から周辺市町 村に交付される交付金の上限撤廃を要請 (1.29)	・「生態系実験施設」の名称を「生態 系実験施設」及び「生態系研究施 設」に変更(4.1) ・島田義也理事長が国際放射線研究 連合(IARR)会長に就任 ・国立研究開発法人量子科学技術研 究開発機構(QST)と包括連携協定 締結(11.1)
2020 (R02)	・新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言 ・はやぶさ2、カプセル帰還 ・スパコン計算速度で「富岳」 世界一 ・藤井聡太七段 最年少タイ トル ・九州で記録的豪雨	・第 12 回核燃料サイクル協議会において、 青森県知事から国に対し原子力・核燃料サ イクル政策の推進について本事業の継続 的遂行について要望。これに対し、官房長 官から「我が国の原子力政策にとって、核 燃料サイクルの確立は重要。政府として、 地元の声にも配慮しつつ、核燃料サイクル 政策を進める」と発言(10.21)	・福島大学環境放射能研究所と包括 連携協定（研究協力に関する協定 書）を締結（3.31） ・シンガポール大学との共同研究 「異なる線量率の照射後の B6C3F1 マウスにおける血液及び 脾臓のバイオマーカー、脳神経発 生及び老化の相関性研究」 ・堀内 文部科学省審議官視察 (10.15) ・弘前大学と包括連携協定を締結
2021 (R03)	・新型コロナウイルス 1 都 3 県 に緊急事態宣言 ・東京五輪開幕 ・真鍋叔郎氏にノーベル物理 学賞 ・米大リーグ・エンジェルス大 谷翔平 MVP 受賞	・六ヶ所村議会、第 4 次六ヶ所村総合振興計 画 2016-2025・後期基本計画 2021～2025 議 決に「②六ヶ所村では、環境科学技術研 究所や国際核融合エネルギー研究センター などの国際的な研究機関の開設に伴う外 国人研究者や技術者との交流実績、子ども たちの国際化に取り組む国際教育研修セ ンターなどの環境が整いつつあり、今後 は、これらを取り込んだ特色ある国際教育 等へ積極的に取り組むことで、六ヶ所村な らではの環境を活かした地域発のグロー バルな人材育成が期待されています」と記 載あり。「8) 次世代エネルギーパークに (公財)環境科学技術研究所：放射性物質の 環境中での動きに関して実験する全天候 型人工気象実験施設と閉鎖型生態系実験 施設」と記載あり(3.14)	・地域共創委員会(六ヶ所村内有識 者から成る)の創設と開催(2.17) ・松尾泰樹文部科学省文部科学審議 官視察(7.7) ・放射性核種の環境ダイナミクスと 低線量率放射線の生物影響に関する 国際シンポジウム(9.27-29, オン ライン) ・共創センター開設(12.1)
2022 (R04)	・北京冬季五輪。 ・ロシア・プーチン大統領によ るウクライナ軍事侵攻開始 ・安倍晋三元首相暗殺。 ・サッカーW 杯日本がドイツ、 スペインを破りベスト 16		・柏木司青森県副知事視察(1.17) ・トリチウム研究センター開設(4.1) ・学校法人北里研究所と包括連携協 定締結(6.9) ・(公財)日本海洋科学振興財団と包 括連携協定締結(11.24)
2023 (R05)	・トルコ・シリア大震災 ・野球 WBC 日本優勝 ・新型コロナウイルス日本で 5 類感染症に移行 ・藤井聡太最年少 6 冠(3 月時 点)		

\*2019.5.1 に平成から令和に改元